

日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施 保津橋地点の水防団待機水位超過を回避

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風5号の降雨により、8月7日5時から8日13時までの総雨量が146mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、毎秒219立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムは防災操作を実施し、最大流入時に約33%（毎秒72立方メートル）の水をダム貯水池に貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を最大約0.2メートル低減し、水防団待機水位（2.30m）の超過を回避したものと想定されます。

※防災操作：大雨による、出水に備えて貯水池の空容量を確保するための操作及び、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※水防団待機水位：河川水位によって水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成29年8月9日

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 佐々木
住所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68
電話：（0771）72-0171（代表）

ひよし
日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施
ほつぼし
保津橋地点の水防団待機水位超過を回避

淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風5号の影響により8月7日5時頃から雨が降り始め、7日16時から19時までの3時間で31mm、7日17時から18時の1時間では16mmを観測するなど、8日13時までに総雨量146mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

8日0時20分には、ダム流入量が最大（毎秒219立方メートル）となりました。同時刻におけるダム流下量は毎秒147立方メートルであり、流入量の約33%（毎秒72立方メートル）をダム貯水池に貯留しました。

日吉ダム防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	同時刻におけるダム貯留量
日吉ダム	146mm	平成29年8月8日0時20分	毎秒219m ³	毎秒147m ³	毎秒72m ³

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、ダム下流の保津橋地点（かめおかしほつちょうしもなかじま 亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を最大約0.2メートル低減し、水防団待機水位（2.30m）の超過を回避したものと想定されます。

なお、ダムが無かった場合には、保津橋地点における河川水位は、水防団待機水位を約2時間超えていたものと想定されます。

保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	水位低減効果
平成29年8月8日1時30分	2.15m	2.35m	0.20m

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

（参考）管理開始（平成10年4月）以降の最大流入量大きい主な出水と今回の記録

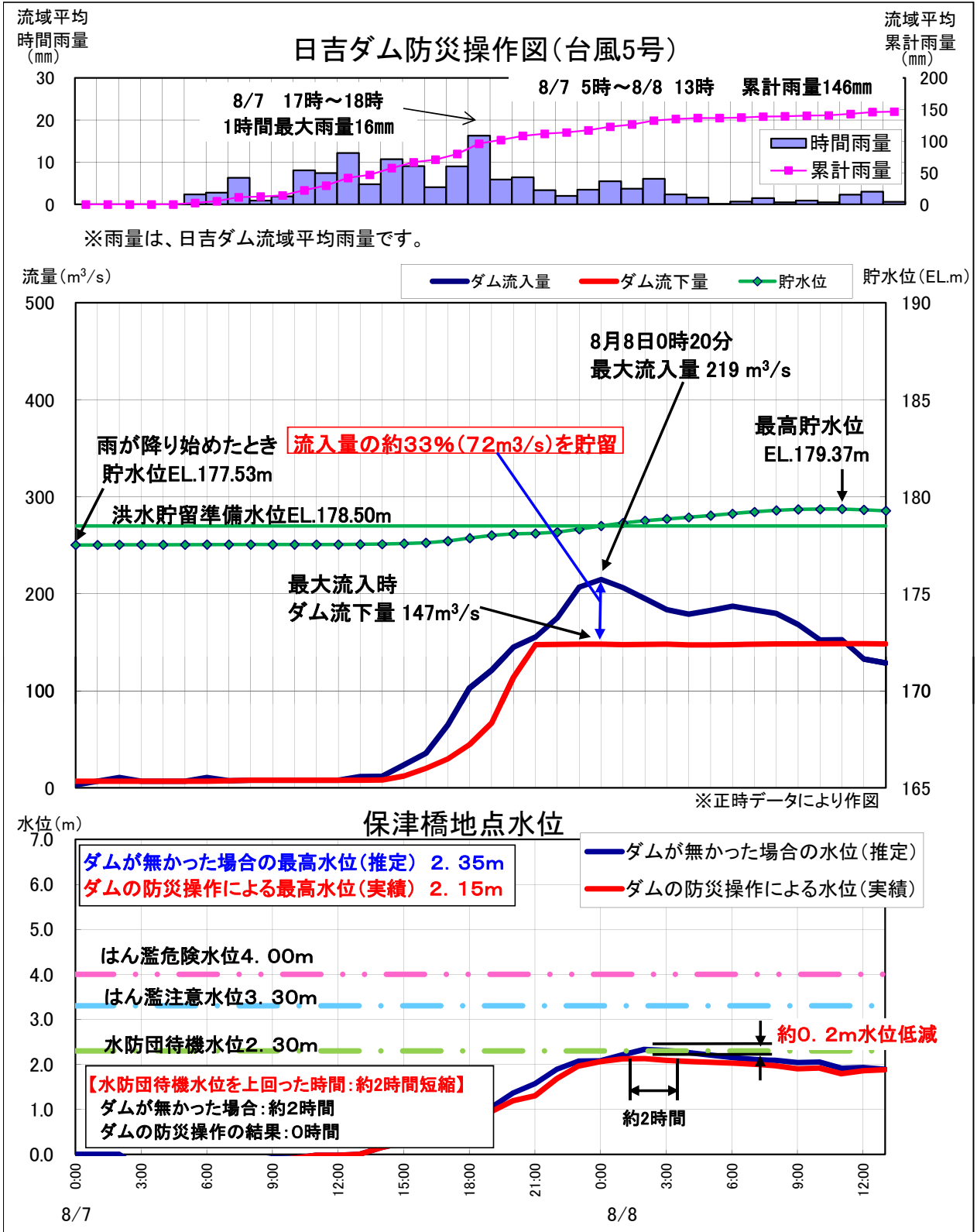
順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m ³ /s]	最大流入時のダム流下量 [m ³ /s]	最大流入時の貯留量 [m ³ /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546
2	平成26年 8月 前線	214	1,291	42	1,249
3	平成26年 8月 台風11号	298	913	14	899
23	平成29年 8月 台風5号	146	219	147	72

※管理開始（平成10年4月）以降の出水で、最大流入量大きい方から3番目までと今回を記載しています。

位置図



・保津橋地点の水防団待機水位超過を回避



日吉ダム 洪水に対し防災操作を実施、保津橋地点の水防団待機水位超過を回避

■台風5号の影響により、淀川水系桂川の日吉ダム流域では、1時間雨量で最大16mm、降り始めからの総雨量は146mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒219立方メートルを記録しました。

■日吉ダムは、最大流入時に約33%（毎秒72立方メートル）の水をダム貯水池に貯留しました。今回の防災操作により、京セラドーム大阪※約1.5杯分（181万立方メートル）に相当する水をダムに貯め込むことにより、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を最大約0.2メートル低減し、水防団待機水位（2.30m）の超過を回避したものと想定されます。（※京セラドーム大阪の容量を120万 m^3 として算出）

最大流入時に約33%の水をダムに貯留し、京セラドーム大阪約1.5杯分に相当する水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

ダム堤体上流面



（貯水位EL.177.54m：平成29年8月7日8時10分）

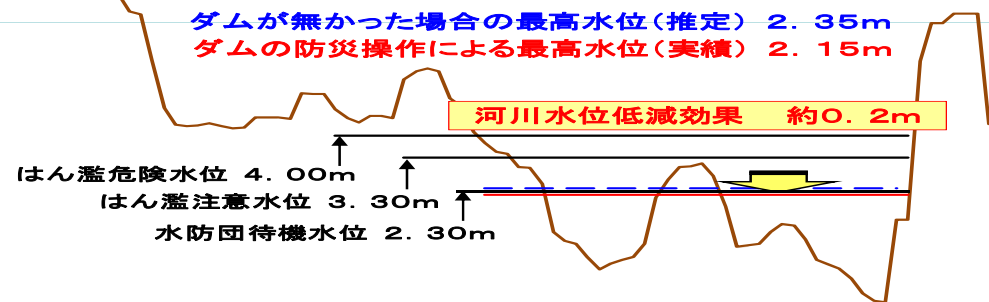


（貯水位EL.179.37m：平成29年8月8日11時10分）

保津橋地点（保津川下り乗船場付近）での水位低減効果

保津小学校側

JR亀岡駅側



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。